

(参考)世界の有力大学における
新たな施設整備の取組事例



イノベーションの創出を 活性化させる研究施設 — iPS細胞研究の経験から —

2014年5月15日



大
京都大学 iPS細胞研究所
所長 山中 伸弥



90年代の米国

グラッドストーン研究所で博士研究員



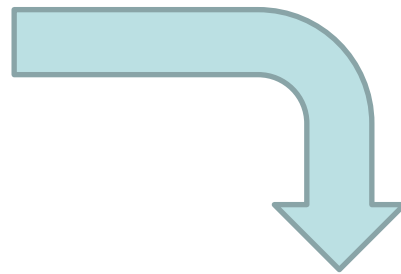
1993 ~ 1997 (写真提供: グラッドストーン研究所)

1990年代中ごろの研究施設

日本⇆アメリカ

2007年、グラッドストーン研究所でも
研究を再開

アメリカの研究施設の現状

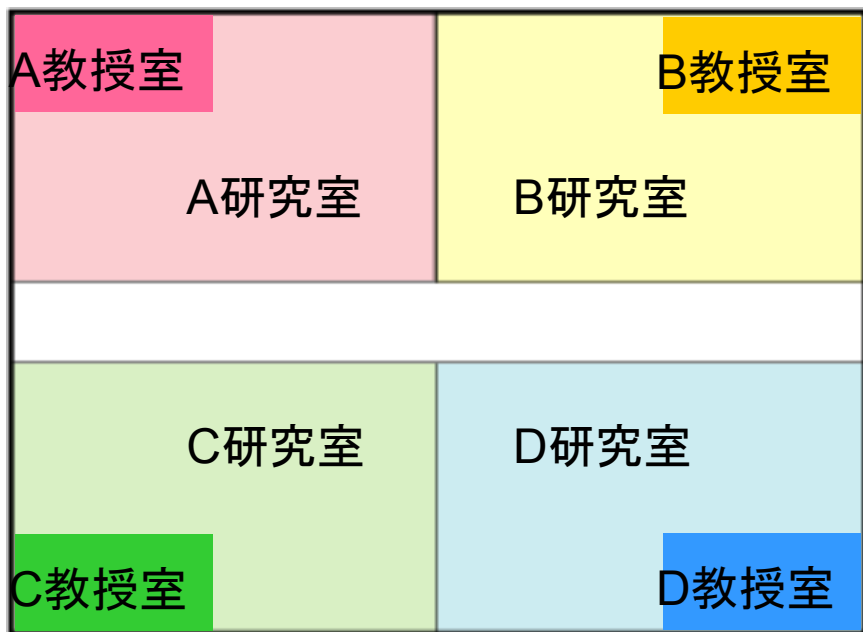


(写真提供: グラッドストーン研究所)

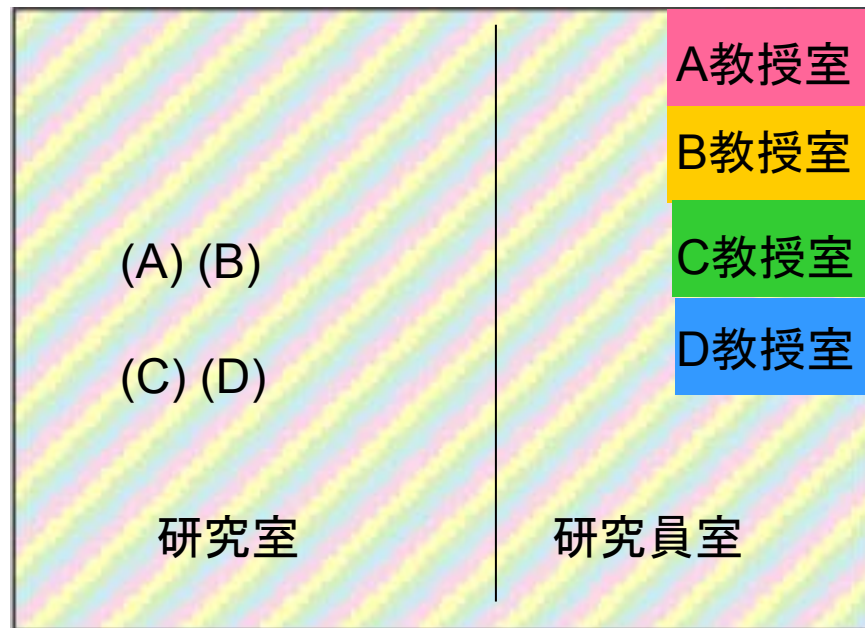


(写真提供: グラッドストーン研究所)

オープンラボによるインターアクティブな研究環境



従来のレイアウト



オープンラボ

スタンフォード大学 BIO-X

イノベーションを導く異分野融合の先駆け

医学、生物学

X

工学、化学、物理、情報工学など

1998年にSpudich博士が提唱

京都大学iPS細胞研究所のオープンラボ



2010年2月竣工



(写真提供: 京都大学iPS細胞研究所)



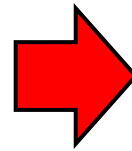


(写真提供: 京都大学iPS細胞研究所)

しかし、ほとんどの場合は。。。



耐震



改修



従来コンセプトのまま

現在の研究施設

日本<<欧米等の諸外国

イノベーションを推進する研究施設

オープンラボ

交流スペース

フレキシビリティ